

# 高校での キャリア教育

シリーズの第4回は、9月号に続いて高校でのキャリア教育を取り上げた。

今回は、群馬県立高崎高等学校と千葉県立東葛飾高等学校のキャリア教育の取り組みを紹介する。



事例1

## 群馬県立高崎高等学校

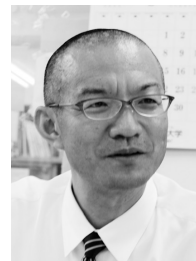
### 「社会人講師授業」「企業・研究所・大学訪問研修」を中心に 大学の先を見据えたキャリア教育を実施

群馬県立高崎高等学校は、1897（明治30）年創立の群馬県尋常中学校群馬分校を前身とする伝統校であり、創立以来、政治、経済、医療、文化、教育等、さまざまな分野で多くの人材を輩出している。同校では現在、社会のリーダーとなり得る人材育成を目標としたキャリア教育を行っている。そこで進路指導主事の内田均先生、進路部副部長の間々田功先生、2学年進路担当の坂爪誠先生に、同校の取り組みについて伺った。

#### 世界、日本、郷土で活躍するリーダー育成を 目指し、大学卒業後を見据えたキャリア教育を実施

高崎高校の進路指導の目標は、①将来社会の各方面で活躍し得る人間——特に、世界で、日本で、郷土で信頼されるリーダーシップを備えた人間の育成、②時代を切り拓く力を備えた人間の育成、③広角な視野に立ち、真に国際社会に対応し得る人間の育成である。内田先生は、「そのためには、学業面で優秀な成績を修めるだけでなく、総合的な人間力が必要です」と、10年以上前から、大学進学を前提としつつも、大学の先を見据えたキャリア教育を行っている。

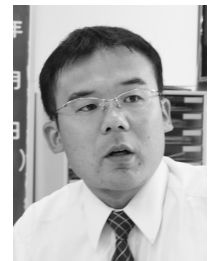
キャリア教育に関する3年間の目標は、1学年が「自己を見つめ自分の将来の在り方について考え、職業観を育成する」、2学年が「自分の現状を把握させ、将来を具体的に展望させる」、3学年が「自分の将来を展望させ、その目標達成のために最大の努力をさせる」である。そして生徒は、同校独自のキャリア学習の冊子である『Career



進路指導主事  
内田均先生



進路部副部長  
間々田功先生



進路担当(2学年)  
坂爪誠先生

Research』を用いながら将来像を描き、進学したい学部・学科や大学を選択していく。なお『Career Research』は、テキストの「学習編」と、ワークシート集である「活動編」から成る。キャリア教育は高校生活の全てを通じて行われるが、キャリア教育を主目的とした活動は、主に総合的な学習の時間で行っている。

キャリア教育の主な取り組みとしては、まず、1学年は、入学直後に2泊3日のオリエンテーション合宿を行う。「ここでは、本校生徒としての基本的な生活習慣の確立や、学習の仕方、部活動を含めた高校生活の在り方、自分を知り、社会を知り、将来を視野に入れた上で進学先を決めることの大切さを伝えます。同時に生徒自身で高校生活をどう過ごせばいいかを考えます。具体的には、教員からの講義のほか、クラスの仲間と親交を深める、先輩である2年生の生徒会委員を交えてディスカッションする、文系・理系合わせて4～6人の卒業生を招いて、高校時代どんな生活を送っていたか、どんなことに一生懸命取り組んでいたか、その結果としての現在の学生生活を話してもらっています。クラスから先輩、最後に卒業生（大学生）と視野を広

げるようにしているのがポイントです」(内田先生)

### 事前・事後学習で教育効果を高め グループ学習と発表会で汎用的能力を育成

1学年のキャリア教育の核は、毎年10月頃に実施している「社会人講師授業」である。工学系、理学系、医学系、薬学系、法・政治系、経済・商・経営学系、文・社会学系といった学問系統別に、それぞれ1～3名の社会人を講師に招いて約100分の講演を実施。生徒は1つ選んで聴講する。運営は、学年の担当教員が中心になって行う。今年の場合、講師を5月頃から探しはじめ、7月末から夏休みにかけて依頼した。「地元の有名企業など毎年お願いしているところもありますが、新たな講師に依頼することも多いです。地元企業や、保護者、卒業生、同窓会、そしてSSH<sup>(注1)</sup>やヒューマンサイエンス<sup>(注2)</sup>の取り組みで来ていただいた外部講師などに依頼をしています」(間々田先生)

同校の「社会人講師授業」の特徴は、講演をイベントとして終わらせず、事前学習と事後学習を充実させている点にある。まず、9月に生徒に対してガイダンスを実施し、生徒は第三希望まで提出。人数調整の後、聴講する講座を決定する。続いて総合的な学習の時間3～4回を使い、『Career Research—活動編—』や、学年が独自に用意したワークシートを用いながら、聴講する講師の職業について、①この職業に求められる能力・資格・技術は何か、②この職業に就くにはどのような学問を学ぶべきか、③この職業は社会とどのように関わっているか、④講師への質問、などを調べてまとめた後、社会人講師の授業に臨む。「事前学習から生じた疑問はあらかじめ教員がとりまとめて講師に送り、講演当日に回答してもらっています。当日は、司会進行など運営の一部も生徒に任せています」(坂爪先生)

事後学習は、生徒が聴講した講演ごとに6～7人の班を作って行う。まず『Career Research—活動編—』を使って、授業の記録や質疑応答の内容、感想を各自まとめた後、班ごとにパワーポイントを使って、講演の内容をまとめて報告する。「班長、副班長、礼状担当、パワーポイント作成の責任者、プレゼンターなど全ての生徒が何らかの係を担当するようにしています」(内田先生)

全員の生徒が班の中で自分の役割を果たすことによって、リーダーシップやチームワーク力も培われる。

プレゼンテーションの内容は、授業内容、事前に送った

質問に対する講師の回答、質疑応答、感想、授業から学んだこと、希望する進路実現のために何をすべきかなどをまとめる。発表は、まず同じ講演を聴いた班の間で行い、内容・構成、パワーポイントの出来映え、プレゼンテーション技能を相互評価する。最優秀の班は、学年全体の発表会で発表し、全ての講演の内容を共有する。ここでも生徒による評価を行い、最優秀の班を表彰する。

事前学習と事後学習を充実させている理由について、内田先生は「事前に自分で手を動かして調べることで、聴講する講師の仕事に対する理解が深まりますし、問題意識を持って講演を聴くことができます」と言い、坂爪先生も「講演は一度聴いただけだと、その時理解したり感動したりしてもやがて忘れてしまいますが、事後に班で話し合ったりまとめたりすることが振り返りとなり、その内容を自分のものにすることができます」と話す。

### 大学や大学卒業後の世界に触れ、働く人の 思いを知る「企業・研究所・大学訪問研修」

2学年のキャリア教育の核は、毎年9月上旬に2泊3日で行う「企業・研究所・大学訪問研修」である。実施の目的は、①最先端の企業や大学を訪問することにより、企業活動や研究活動についての知見を深め、進路決定、進路実現に資する、②大学卒業後の世界を知ることで、現在の学習目的を明確にし、学校生活に知的好奇心を持って意欲的に取り組む姿勢を育成する、③人生の先輩としての企業人、研究者とのふれ合いの中から、将来に向けた指針を見だし、社会を構成する一員として積極的にその進展のために貢献していく姿勢を養う、の3つである。

毎年生徒の希望を勘案して学問系統別に各コース5～8カ所の企業・研究所・大学を訪問<図表1>。今年度は医学系、薬化農生系、文学社会系、教育系など8コースに分かれて実施した。学年担当の教員が各コース1～2名ずつで担当し、訪問する企業の選定や交渉、日程調整、引率を行う。訪問先は、例えば数物情報系のグループは、東芝科学館、情報通信研究機構(NICT)、筑波大学などの7カ所を訪問した。坂爪先生が担当した文学社会系のグループは、日本テレビ、東京外国語大学、早稲田大学、Yahoo! JAPAN、講談社、朝日新聞社東京本社、慶應義塾大学を訪問した。

「慶應義塾大学では、入学センターの方からの大学説明の後、心理学の模擬授業を受けました。その後、卒業生の

(注1) SSH…スーパー・サイエンス・ハイスクール

(注2) ヒューマンサイエンス…2002(平成14)年度より高崎高校ではSSHの指定を受けていたが、文系の核となるクラスを設定するため、2005(平成17)年度よりヒューマンサイエンスクラスを1クラス設置。学校設定科目「ヒューマンサイエンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ」や「ヒューマンサイエンス体験講座」などを実施してきた。

<図表1> 2011年度「企業・研究所・大学訪問研修」一覧

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大阪大学医学部(吹田キャンパス)</li> <li>2. 大研医器株式会社(商品開発研究所)</li> <li>3. 京都大学再生医学研究所</li> <li>4. 京都大学吉田キャンパス散策・京都市内散策</li> <li>5. 東京大学医学科学研究所 東京大学白金キャンパス散策</li> </ol> </li> <li>・薬化農生系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 京都大学吉田キャンパス内自由見学</li> <li>2. 京都大学農学部(吉田キャンパス)</li> <li>3. ロート製薬(株)(ロートビルディング 京都)</li> <li>4. 薬師寺・唐招提寺・奈良公園 班別散策</li> <li>5. 武田薬品工業(株)(大阪工場)</li> </ol> </li> <li>・数物情報系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東芝科学館</li> <li>2. NICT 情報通信研究機構</li> <li>3. 筑波大学(筑波キャンパス)</li> <li>4. JAXA 宇宙航空研究機構</li> <li>5. 東京大学先端科学技術研究センター(駒場キャンパス)</li> <li>6. 理化学研究所</li> </ol> </li> <li>・工学系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大阪大学(吹田キャンパス)</li> <li>2. 産業科学研究所</li> <li>3. 超高压電子顕微鏡センター</li> <li>4. (株)明治 大阪工場</li> <li>5. ユニバーサルスタジオジャパン</li> <li>6. 造幣局(本局・大阪)</li> <li>7. パナソニックセンター大阪</li> <li>8. 大阪城天守閣</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法学系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法務省・法務資料展示室</li> <li>2. 東京地方検察庁</li> <li>3. 外務省</li> <li>4. ディズニーアカデミー</li> <li>5. オリエンタルランド</li> <li>6. 東京大学(本郷キャンパス)</li> <li>7. 慶應義塾大学(三田キャンパス)</li> </ol> </li> <li>・経済系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本テレビ</li> <li>2. 東京三菱UFJ銀行本店</li> <li>3. ディズニーアカデミー</li> <li>4. オリエンタルランド</li> <li>5. 東京大学(本郷キャンパス)</li> <li>6. 慶應義塾大学(三田キャンパス)</li> </ol> </li> <li>・文学社会系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本テレビ</li> <li>2. 東京外国語大学(府中キャンパス)</li> <li>3. 早稲田大学(早稲田キャンパス)</li> <li>4. Yahoo! JAPAN</li> <li>5. 講談社</li> <li>6. 朝日新聞社東京本社</li> <li>7. 慶應義塾大学(三田キャンパス)</li> </ol> </li> <li>・教養系                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国立教育政策研究所</li> <li>2. ジテレビ</li> <li>3. ディズニーアカデミー</li> <li>4. オリエンタルランド</li> <li>5. 東京大学(本郷キャンパス)</li> <li>6. 早稲田大学(早稲田キャンパス)</li> </ol> </li> </ul>
---	--

高崎高校ホームページより

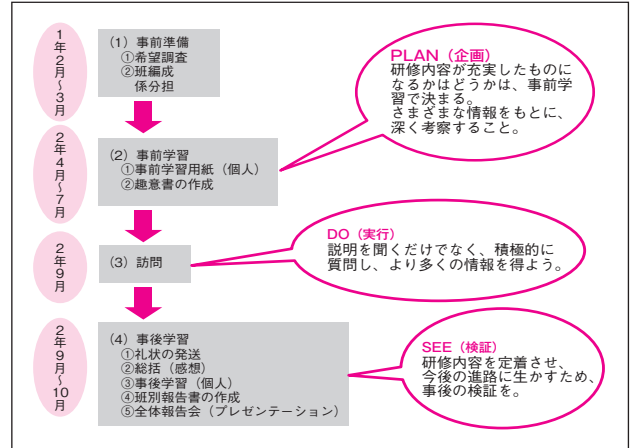
慶大生と学食で昼食をとりながら懇談し、学内を案内してもらいました。大学訪問は、模擬授業を受けることもありますし、キャンパス見学の場合もあるなどさまざまです。企業や研究所訪問で特に大切にしているのは、事業や研究内容をご紹介いただくだけでなく、社会人の仕事に対する思いを語っていただくことです。朝日新聞社では、編集部等の見学の後、記者の方から講義をしていただきました。自分が記者になってからどのように仕事してきたかや、現在の若手記者の活躍を、実際に携わった事件とともにお話しいただき、私自身も感動しました」(坂爪先生)

そして「企業・研究所・大学訪問研修」でも、事前学習、事後学習を重視し、6～7名の班によるグループ学習を行っている<図表2>。

事前学習は、4月から5月にかけて訪問先が内定すると、生徒は総合的な学習の時間や「情報」の時間の一部で、インターネットや大学案内等の資料を調べて、訪問先の概要、事業内容、特色、活動の目的、社会との関連(社会にどのような貢献をしているか)、求められる人材、必要とされる資質や能力などを調べ、研修で学びたいことをまとめる。研修当日は、訪問施設間の移動の一部を班単位で行動する。「次の訪問先の集合時間のみ指定し、生徒が交通手段を調べて移動します。これは入試の際の予行演習にもなっているようです」(内田先生)

事後学習の流れは、基本的には「社会人講師授業」と同じである。今回はまず各自がパワーポイントを作成した後、班で1つのパワーポイントを作成し、同じコースを巡った班同士で発表する。ここで優秀な班を選出し、学年の全体の発表会を行う。「2年生になったこと、情報の授業も受

<図表2> 企業・研究所・大学訪問研修「研修の流れ」



※ 日程は2010年度のもの 出典:「キャリアリサーチ 学習編」p75より

けていることから、どの班も1学年での『社会人講師授業』の発表に比べると、格段によい発表をします」(坂爪先生) さらに3学年では、それぞれの進路実現に向けた学習を充実させる。

「社会人講師授業」も「企業・研究所・大学訪問研修」も、学年担当の教員が担当しているのが同校の特徴であり、間々田先生は、「その学年の生徒のことをよく知っている教員が担当することで、生徒の特徴にあわせた内容を設定できるのが利点です」と説明する。さらに同校では現在、キャリア教育の3年間のグランドデザインについて検討を始めているところだと言ひ、そこに現在の行事を位置づけ直すことで、さらに効果を高めていきたいと考えている。

**群馬県立高崎高等学校 (全日制)**

---

◆所在地: 高崎市八千代町2-4-1

---

◆沿革: 1897年、群馬県尋常中学校群馬分校として創立  
1948年、学制改革により群馬県立高崎高等学校と改称  
2002年、文部科学省よりSSHの指定を受ける  
2005年、再度SSHの指定を受ける。ヒューマンサイエンス開始

---

◆学級編成: [全日制] 普通科 各学年8クラス

---

◆生徒数: 男子 963名 2011年8月29日現在

---

◆特色: 全国屈指の進学実績を誇る伝統校で、各界に優秀な人材を輩出している。授業は1995年より1コマ65分制を採用。教育目標に「3F精神(ファイティングスピリット、フェアプレー、フレンドシップ)の涵養に務め、文武両道を堅持」を掲げ、学業と同時に部活動も盛ん。県下最大級の文化祭である翠樹祭や、県立前橋高校との運動競技の定期戦は、学校一丸となって盛り上がる。

---

◆卒業生の進路: 2011年3月卒業生 313名  
・進学先: 4年制大学 236名、その他 1名  
・合格の内訳(延べ数): 国公立大学164名 私立大学557名 専門学校1名

## 「東葛リベラルアーツ講座」「インターンシップ」「自由研究」などを実施し 生徒の希望する進路の実現を目指す

千葉県立東葛飾高校は、1924（大正13）年創立の千葉県立東葛飾中学校を前身とする伝統校である。同校では、「生き方在り方指導（キャリア教育）」と「大学進学指導（受験指導）」の2つを進路指導の柱としている。今回は、「リベラルアーツ講座」と「インターンシップ」を中心に、進路指導主事の長束倫夫先生と、今年度のインターンシップ担当で2学年担当の辻田久美子先生にお話を伺った。

### 千葉県のインターンシップ推進事業や 進路指導重点校指定を契機に進路教育を充実

校是に「自主自律」を掲げる東葛飾高校では、長らく進路指導も「生徒自身が主体となって考えるもの」という考えであった。しかし、全国的な動きの影響や、「生徒にとって何が大事か」を考えた結果、順次、キャリア教育に関する行事を導入している。

主な取り組みとしては、『進路ノート』の活用「大学教員による模擬講義」「卒業生による進学説明会」、2004年に千葉県のインターンシップ事業の指定を受けたことを契機に開始した「インターンシップ」、2007年に千葉県の進学指導重点校の指定を受けたことを契機に導入した「進路の日」と「東葛リベラルアーツ講座」の設置などがある。

各取り組みについて見ていこう。まず、「進路ノート」は、自分の興味関心の方向を探求していくためのワークシート。各学期に1回、ロングホームルームの時間に学習する。今年度からはノートをファイルに改め、授業で作成したレポート、模試の結果、進路便りなども綴じられるようにし、ポートフォリオとしての機能を持たせた。

「進路の日」には全学年の生徒が大学を見学する。1年生は全員で大学に行き、大学教員による講演を聴く。講演後は、同校を卒業した大学生によるキャンパスツアーが行われる。一昨年までは筑波大学で、昨年と今年度は千葉大学で実施した。2年生は、慶應義塾大学法学部、

一橋大学経済学部など、10数大学の異なる学部を設定し、生徒は学部別に大学に出かける。



進路指導主事  
長束倫夫先生



インターンシップ担当  
辻田久美子先生

卒業生の話、模擬講義、研究室見学と、メニューは大学それぞれである。3年生はそれぞれが希望する大学を訪問する。

### 多様な講座開講者による「東葛リベラル アーツ講座」で学ぶ楽しみを知る

「リベラルアーツ講座」は、土曜日（一部金曜日）に多様な分野の講座を開講するもので、教養を身につけることや、学ぶ楽しさを知り学習意欲を高めること、大学で学びたいことや、将来を考えるきっかけにすることを狙いとしている。今年度は36講座開講された<図表>。講座には、教科主体で教科に関連する内容や教職員主体で教職員の専門や趣味を活かした講座、学校外の公開講座との連携などがあり、多彩な内容が展開されている。

全学年が対象で、1年生は最低1講座の受講が義務づけられている（複数の講座も受講可）。「2、3年生の受講はそれほど多くありませんが、3年生で多数の講座を申し込む生徒もおり、理系だが興味があるからと、株式関係の講座を受講した生徒もいました」（長束先生）

さらに、ほとんどの講座は保護者の参加も可能であり、柏まちなかカレッジと共催の「模擬裁判」では、市民と一緒に協議する。「生徒は大人と話す機会があまりありませんから、模擬裁判などの体験型の講座で、大人と意見を交わすのはとても良い刺激となります。講義型の講座でも、生徒と保護者が一緒に参加し、帰ってから話が広がったという話も聞きます。学校では、クラス担任や

＜図表＞「東葛リベラルアーツ講座」の開講講座

講座番号	講座名	講師	区分※
1	東京大学「金曜特別講座」	東京大学教養学部講師陣	A (情報)
2	東葛自由大学	プロの企業コーチほか社会人チーム 48名	B
3	高校生版 リーダーシップ研修プログラム	プロの企業コーチほか社会人チーム 48名	B
4	谷根千(やねせん)文学散歩	本校教諭	A (国語)
5	筑波大学連携講座 サイエンスパートナーシッププロジェクト	筑波大学教員	D
6	首都直下地震に備える	東京大学地震研究所教授	B
7	博学連携講座「上総鎌倉街道」を歩こう	袖ヶ浦郷土博物館	D
8	科学館は頭の遊園地だ!	千葉県科学館館長	B
9	模擬裁判	千葉県地方検察庁職員	A (社会)
10	東京大学連携講座 サイエンスパートナーシッププロジェクト	東京大学大学院新領域創成科学研究科	D
11	文学研究	小説「舞姫」研究者	A (国語)
12	日本の至宝 ～美と技～を観る	東京国立博物館学芸員	A (芸術)
13	高校生模擬裁判選手権 (第5回)	千葉県弁護士会所属弁護士 千葉県地方検察庁職員	B
14	RSA 暗号の理解を深めよう	本校教諭	A (数学・情報)
15	檜枝岐歌舞伎鑑賞会	檜枝岐歌舞伎保存会	B
16	旅をデザインする ① ロンドン	本校教諭	B
17	旅をデザインする ② イギリス	本校教諭	B
18	柏の戦争遺跡を歩く	本校教諭	A (社会)
19	放課後 MAP 隊プロジェクト	sato( <a href="http://satoflat.exblog.jp/">http://satoflat.exblog.jp/</a> )	B
20	東葛白熱教室「これから自主・自律・自由の話をしよう」	本校教諭	B
21	哲学とは何か	本校教諭	B
22	ブータンの学校ってどんなところ?	元 JICA 職員	A (社会)
23	分子模型研究	本校教諭	A (理科)
24	初等整数論における興味深い話題	埼玉大学大学院理工学研究科教授	A (数学)
25	高校生のための認知言語学入門	東京外国語大学准教授	A (英語)
26	東葛 OB・OG が語る職業① 人生失敗なし～起業という生き方～	合同会社 道塾	C
27	自然科学公開講座 半導体が導く明るい世界～LED、太陽電池～	筑波大学大学院数理工学物質科学研究科	A (理科)
28	アフガニスタンの人と暮らし～ニュースで報道されない今のアフガニスタン～	日本国際ボランティアセンター	A (社会)
29	模擬国連高校生全国大会 (第5回)		B
30	東葛 OB・OG が語る職業② 夢をカタチにする仕事～テレビ制作の現場～	東葛助っ人バンクより	C
31	東葛 OB・OG が語る職業③ 夢をカタチにする仕事～総合商社の一仕事体験～	東葛助っ人バンクより	C
32	現役医師が語る医療現場	病院医師	C
33	仕事をつくるということ	N P O sato	B
34	ハーバード大学のリベラルアーツ講座	HCJ-LAB・慶應義塾大学教授	B
35	そもそも会議	T B S 職員ほか社会人	B
36	イギリス・産業革命の遺産を訪ねて	本校教諭	B

※ 区分は、A：分野別(教科主体) B：特別講座(職員主体) C：進路講座(進路指導部関連) D：公開講座(東大講座や SPP)

授業を受け持つ教員以外にも質問や相談に行きやすくなるというメリットもあります」(長東先生)

### 学年の4分の1が参加するインターンシップ

「インターンシップ」は、2年生の夏休みに2日間行われる。実施初年度(2004年度)は、15事業所で約15名が参加し、2年目は、約30名が参加した。現在は約30の事業所で、70～80名の生徒が参加している。

事業所は意識的に、医師や薬剤師、小学校教諭、法曹など、大学への進学段階で職業選択をする専門職が働く事業所を中心に依頼している。これは、インターンシップを経験することで、自分の希望を再確認し、その職業を目指して勉強していくモチベーションを高める意図がある。受け入れ先が増えた現在は、マスコミ、博物館、ITベンチャー企業、ダンス教室の運営会社、インディー

ズ歌手への1日密着など、多様な事業所でのインターンシップが可能になっている。

同校では、好意で受け入れている事業所に対し、「明確な目的を持った生徒を行かせなければ失礼」という考えのもと、希望者には志望理由の作文を書かせて選考している。今年のインターンシップを担当する辻田先生は「志望書は、同じ病院でも、医師志望の生徒が多い場合は医師の仕事、看護師志望者が多い場合は看護師の仕事を中心にを見せていただくというように、受け入れ先事業所と、どのようなメニューにしようか折衝する際の資料にもなっています」と説明する。

事前指導としては、マナー講習などを実施。事業所によっては事前課題もある。終了後は、事業所ごとに、経験した内容を代表者が5分程度で報告し、他の参加者は1～2分程度感想を述べる発表会を実施している。インターンシップに参加した生徒は全員出席するが、参加し

なかった生徒も報告を聴くことができる。参加者は受け入れ先に礼状を書くほか、報告書、日誌、学校からのアンケートへの回答を提出。報告書は文集にまとめて、生徒や関係先に配付される。「報告書やアンケートは、次年度以降、どんな事業所にどんなインターンシップを依頼するかを検討する資料としています」(辻田先生)

インターンシップ参加者のうち5～6名は、1年生対象の「インターンシップ報告会」で報告。1年生は先輩の話を聴き、来年に備える。また、中学生向けの学校説明会でもインターンシップに参加した生徒数名が体験談を話すことになっており、インターンシップがあるから同校を志望するという生徒も増えているという。

長東先生と辻田先生は「労力がかかるし、大学進学実績に直結するわけではない」としながらも、「働いている人の生き方に触れることは生徒のプラスになっている」と実感しており、実施する価値はあると考えている。

### 長く続けるには、組織による運営に移行することが有効

では、同校では、どのような体制で運営しているのか。「リベラルアーツ講座」は、開始当初は学力向上に結びつけようという意識があったことから3学年の学年主任が担当していたが、今年度から総務が担当することになった。「『リベラルアーツ講座』の毎年の開講式が、創立記念講演を兼ねていること、保護者等外部との折衝もあることから、総務が担当することになりました」(長東先生)

「インターンシップ」については、当初は1・2学年の進路担当の教員が運営していたが、規模が拡大するにつれ運営が難しくなり、現在は、インターンシップ実施学年の2学年の担任と副担任が担当している。ただし、新規受け入れ先の開拓は進路が担当する。

毎年担当する教員が変わることについて辻田先生は「前年度の担当者に聞くことができますし、前年度の資料も残っていますので、今のところ問題はありません」と話す。そして長東先生は、「『リベラルアーツ講座』も『インターンシップ』も、開始当初は担当教員が頑張っ

て推進していますが、学校として長年続けるためには、組織として取り組む体制に移行することが有効だと思います」と言う。

『自由研究』をリンクさせて、将来の夢の実現につながる工夫をしていきたい」と考えている。

「法学部志望の生徒が、リベラルアーツ講座で模擬裁判を受講し、弁護士事務所にインターンシップに行き、自由研究で司法に関するテーマを取り上げ、さらに3年生のときに模擬裁判高校生選手権に出場するといった例や、民俗学関係の自由研究をしている生徒にリベラルアーツ講座の、福島県の檜枝岐村で史跡見学や民俗調査を行う講座の受講を勧めるといった例はありますが、まだ一部です。ただ、すべての取り組みを進路選択に結びつけてしまうと、学ぶ楽しさを知り、教養を身につけるという魅力が薄れてしまいますので、バランスが必要だと考えています。こうした取り組みの中から、何かひとつ、生徒が将来の方向を考えるきっかけとなるものがあればよいと思います」(長東先生)

同時に、「希望する進路を実現するための学力を伸ばすことも大切であり、生徒からの学力面でのサポートのニーズも高い」と長東先生は言い、「大学進学指導」の面でも、やはり進学指導重点校指定を契機に、段階的に、模試の実施、夏季と冬季の補習実施、平日の補習を開始するなどして、生徒の支援を充実させている。

「今後も『生き方在り方指導(キャリア教育)』と『大学進学指導(受験指導)』を両輪に、生徒のニーズを把握して改善しながら、進路指導を行っていききたいと思います」(長東先生)

### 千葉県立東葛飾高等学校(全日制)

◇所在地：千葉県柏市旭町3-2-1

◇設立：1924(大正13)年、千葉県立東葛飾中学校開設  
1948(昭和23)年、千葉県立東葛飾高等学校と改称

◇学級編成：1年生8クラス、2年生9クラス、3年生8クラス

◇生徒数：884名(男子451名、女子433名)2011年7月1日現在

◇特色：校是の「自主自律」の下、スポーツ祭や合唱祭、文化祭は生徒主体で運営されている。2007年度より県の進学指導重点校の指定を受ける。「東葛リベラルアーツ講座」「進路の日」「大学模擬講義」「インターンシップ」「夏季講座・冬季講座」「各種模擬テスト」「図書館や自習室の開放」などさまざまな取り組みを実施。

◇卒業生の進路：2011年3月卒業生 322名

・進学先：4年制大学220名 短期大学1名 専門学校2名  
・合格の内訳(延べ数)：国公立大学85名 私立大学553名、  
短期大学2名